

2021年9月11日(土) 静岡県教育会館

ゆきとどいた教育の実現のために 「教育全国署名」静岡県スタート集会・学習会 報告集

10時からスタート集会開会。



司会・富田

子どもの教育を考える静岡県民会議代表、鷹匠法律事務所の大橋昭夫弁護士を紹介します。

あいさつ・深田

「標準法改正、小学校で35人学級法制化実現、4億7000万筆の署名の成果。しかし高校ではコロナ下でも40人学級、早く変えねば。デンマークではどうなのか、いろいろ学ぶところがたくさんありそうです。

講師紹介・橋本

「昨年、エバーグリーン主催の講演会に招き、高校生が聞けなかったので8月の藤枝市平和展で再度お願いした。その時の題は、『デンマークに学ぶ 平和のための底力』。コロナ禍で教育予算の充実・教育無償の必要性がより明らかになった。本丸は大学教育の無償化。自己責任、受益者負担というが、教育の受益者は個人ではなく、社会・国家。どうしたら無償化を実現できるか、医療・福祉・教育を無償にしているデンマークから学ぶことができるはず。吉田恵美子さんには無理を言って、「教育を無償にする力」という題でお願いしました。

吉田恵美子さんのお話し

「教育を無償にする力」という題をいただきました。

ゆきとどいた教育の実現のために

「教育全国署名」 静岡県スタート集会・学習会

すべての子どもには、ゆきとどいた教育を受ける権利があり、その条件を整えるのは国の責任です。教育予算の増額による少人数学級の前進、教育費の無償化、給付制奨学金の拡大、特別支援学校の過大・過密の解消など教育条件の改善はすべての人の願いです。
コロナ禍で、あらためて学校の課題が明らかになり、20人学級を模索した少人数学級の前進は急務です。
30年以上続く「教育全国署名」、子どもたちや若者を励まし、地域づくりの運動としてとりくみましょう。

日時：9月11日(土) 10:00~12:00

会場：静岡県教育会館 4階大会議室(静岡駅徒歩5分)
(コロナ感染拡大の状況によっては、延期・中止の場合もあります。ご容赦ください)

第1部 学習会「日本の大学を無償にするにはどうしたらよいか」

010:00~11:00 吉田恵美子さんのお話し

「デンマークに学ぶ～教育を無償にする力～」

Hygge (ヒュゲ)「人と人が出会ってつくる幸せな時間」をご一緒によんだ えみこさん
特別支援学校を中心に25年間教職を務め、退職後に、デンマークの語がいの者と雑常者が一緒に学ぶ成人学校「エダモントホイスコーレ」に留学。日本では無理だと思われていることでも、エダモントでは進んでいる人も一緒に、釣り、海水浴、カヌー、登山などを楽しんでいた。

帰国後「デンマークキャンプ2017in 横浜」にスタッフとして関わり、障害のある人と一緒に釣り、カヌー、登山を楽しむ。現在「多様な人たちが集まり、つながる場」として自宅でスープレ「Hygge」を開業。年代・職業・国境を超えて「ゆるくつながるまちづくり」を目指す。
焼津市在住。「まちづくりを考える会 Hygge」代表、「アートのラボ 400」スタッフ、「人間と性教育研究会」委員、NPO法人「静岡県障害児教育の充実を考える会」理事。
スープレ「Hygge」(焼津市西小川5-20-10) 11:00~19:00 開店、日月火定休(不定休有) TEL 054(628) 9846

011:00~11:40「大学で学ぶことの意味、学生生活」大学生の感想・活動紹介など

第2部 教育全国署名静岡県スタート集会 11:40~12:00

各団体からの報告・発言表明などをお願いします。

Zoomでの参加は下記から入室してください。9:30から入室できます。
<https://zoom.us/j/93620704460?pwd=ckt6URMNMlROK0pL0dNPlhEh25OUU09>
ミーティングID: 936 2070 4460 パスワード: 977663

メールでお知らせくだされば、上記URLを送信します。

主催：子どもと教育を考える静岡県民会議

新日本婦人の会静岡県本部・静岡県労働組合評議会・全静岡県職員組合
静岡県高等学校障害児学校教職員組合・静岡県私学教職員組合連合

連絡先：静岡県高等学校障害児学校教職員組合
〒420-0856 静岡市葵区藤原町1-12 静岡県教育会館2階
TEL: 054-254-6900 FAX: 054-254-0814 メール: info@s-koukyousei.jp

参加できる方は
ご一緒にください。



2021年 静岡県スタート集会・学習会
デンマークに学ぶ
教育を無償にする力
～わたしには何が出来るだろう～



スープレHygge店主 吉田恵美子



自己紹介

- ・ 特別支援学校、小中学校で勤務。退職後58歳でデンマークへ1年間留学。
- ・ 「多様な人が集まる場」スープレHygge(デンマーク語：人と人が出会って作る幸せな時間)店主。
- ・ 焼津市知的障害者相談員、焼津市子ども発達支援センター相談員、一般社団法人トリナス理事

あしたからすぐに効力のある方法ではなく、じっくり取り組むべきこと、自分には何ができるのだろうかと考えるきっかけになるようなお話ができたと思います。

特別支援学校の教員を退職し、デンマークのエグモントホイスコーレに留学しました。今はスープ屋「Hygge（ヒュゲ）」（デンマーク語：人と人が出会って作る幸せな時間）開店、食を取れ入れた多様な人が集まる場所づくりを目指しています。焼津市知的障害者相談員、藤枝市こども発達支援センター相談員、まちづくりにとくむ一般社団法人トリナスの理事もしています。

デンマーク？



北欧諸国の一つ
 人口570万人
 国土は九州くらいの広さ
 教育・福祉・医療は無料
 消費税25%、所得税40～60%
 食料自給率300% 農産物2/3輸出

国連「世界で一番幸せな国」7年連続でトップ3入り
 *2016年1位、2019・2020・2021年2位

デンマークは、北欧諸国の福祉国家の一つ、人口570万人、国土は九州くらいの広さ。

教育・福祉・医療は無料、消費税25%、所得税40～60%。給料は月30万円くらいでも税金に半分くらいは取られます。生活はかつかつですが、「自分たちでこの国を変えられる」という意識を国民が持っていて、教育・福祉・医療は無料なので、安心感を持って暮らせます。物価は高いけれど、農業国で食糧自給率も高く、生活に必要な食料品は安く手に入ります。贅沢をしなければ普通に暮らすことができ、国連による「世界で一番幸せな国」に7年連続でトップ3入りしている国です。



カラフルな古い建物が並ぶデンマークの街並み。コペンハーゲンに次ぐ第2の都市オーフスは、学校の近くの歴史的な建物の塔など、小さな町に素敵なものがたくさんつまっている街です。人々は森を大切にし、自然の中で過ごすことを快適だと感じ、自然と共に生きることを大切にしています。

右は、学校のすぐ近くを自転車に乗って散歩する体験の授業の時の様子。黄色いのは油を取るための菜の花畑。右下はランチを取っているところ。学校に出入りしているパン屋のおじさんの趣味が馬車で、乗せてもらいました。馬車はよくイベントで使われています。

フォルケホイスコーレは、大人が学ぶ全寮制学校・国民高等学校です。デンマークには70校ほどあります。2016夏～2017夏、私は「Egmont（エグモント）ホイスコーレ」に留学しました。学生の平均は21歳くらいですが、年齢は様々。全寮制で、学生200人のう



フォルケホイスコーレ（大人が学ぶ全寮制学校）
 ・2016夏～2017夏 Egmontホイスコーレへ留学
 ・学生200人のうち200人がなんらかの障害を持つ人、100人がヘルパー学生（働きながら学ぶ）
 『自立、尊厳、連帯』。『楽しい時にこそたくさん人の学びがある』。『エミコはどう思うの？』

ち 100 人がなんらかの障害を持つ人。100 人がヘルパー学生。障害者が自分のお金でヘルパーを雇い、一緒に学んでいます。学費は無料ですが、ヘルパー学生は月 7～8 万円の収入があり、寮費と食費に充てていました。

「自立、尊厳、連帯」「楽しい時にこそたくさんの学びがある」をモットーにしています。「連帯」には驚きました。日本では労働組合くらいでしか使わないのに、変えるためにはみんなで力を合わせる事が大切だという考え方が定着しているようです。

そして「学びは楽しくなければ本物ではない」。特別支援学校ではかなり普及してはいますが、日本でどれだけ学びを楽しめているのでしょうか。デンマークでは本当に楽しかったです。

日本と一番違っていたのは、「エミコはどう思うの?」といつでもどこでも何度も聞かれたことです。何が好きなのか、何をしたいのか、この問題についてはどう考えるか…など。障害のあるなしにかかわらず、いろいろな考え方があることを尊重し合っているようでした。



デンマークの教育
～教育を受ける権利～
幸せを追求する教育
1～9年生（義務教育・小中学校）
小学校ではテスト・宿題はない？
グループワーク、プレゼンテーション中心
その後の多様な選択肢（約300）
・エフタスコレ（14～18歳未満）
・高校（普通、工業、商業など）
・多様な専門職の技術を学ぶ職業資格（保育士、療法士、小中学校教員、看護師など）をとるための専門学校
・フォルケホイスコーレ（17歳半以上）
・大学（全体の8割程度が2年生大学・各種専門大学を含、進学平均年齢19～26歳、）

デンマークの教育

日本では、何のために教育するのか、学ぶのかはあまり議論されませんが、デンマークでは、日常の様々な場面で、自分が、そしてみんなが幸せになるためにはどうしたらよいかを考え合っています。学校も、そのためにあると考えているように思えました。

義務教育は日本と同じ、6歳から15歳。

1～9年生の義務教育・小中学校では、テストも宿題もほぼありませんし、テストのできなどで競い合ったりさせません。先生が前に立ってする授業もほぼありません。グループワークで一緒に調べて考え、みんなの前で

発表することを重視しています。生徒のプレゼンを見ましたがみごとでした。小学校の高学年ではごみ問題、中学校では日本で言ういじめ問題にあたるのかな、「移民などの他宗教の人たちを孤立させないためにどうしたらよいか」を扱っていました。プレゼンはとても上手で、自分たちの問題を身近な問題としてとらえ、自分たちで解決する方法を考えているようでした。

エグモントもそうですが、公立ではないフリースクールや私立の学校にも8割くらいの国からの補助があり、企業からの援助があり、公立と同じように教育費は無償です。

「ホームエデュケーション」といって、家庭で学ぶということも広く普及していて驚きました。女性教師が1年休むというので聞いてみると、夫と家族も一緒に、仕事も学校も休んでヨットで世界一周してくるということでした。私は驚きましたが、まわりは当たり前のことのように受け容れていました。ここが日本と一番違うところかなと思いました。

義務教育が終わる15歳からは多様な選択肢が保障されています。約300ともいわれます。

○エフタスコレ（14～18歳未満）、中卒生が選択、14歳～可能

○高校（普通、工業、商業など）

○専門学校 保育士、療法士、小中学校教員、看護師など多様な専門職の技術を学び、職業資格をとるため

○フォルケホイスコーレ 17歳半以上なら誰でも入学可。

○大学 2年生大学・各種専門大学を含み、全体の8割程度が通うと言われる。進学平均年齢19～26歳、。

日本では、15歳で高校進学、18歳で大学進学が普通と考えられていますが、デンマークでは年齢にとらわれず、いつでもだれでもチャレンジできる仕組みになっています。30歳くらいまでに自分の進路が決まればよいというような考えのようです。

エフタスコーレは、260校あり、サッカーやウインドサーフィン、リズム体操など25種類のスポーツ、乗馬、IT、メディア、手工芸、デザイン、自動車・技術、大工、自然、アウトドアライフ、農業、料理、狩猟、ダンス、音楽、ミュージカル、演劇、外国語などを学ぶことができます。メイン科目は週6コマ、その他は義務教育科目や選択科目を学びます。

対話と生の体験を通して学び、寄宿制で親から離れて生活します。公立ではないのである程度学費はかかるようです。

フォルケホイスコーレは、17歳半以上ならだれでも入学でき、4つの特徴があります。

- ①探す・見つける、追求する
- ②試験なし、成績なし
- ③会話、談話、対話
- ④共に学び、共に暮らす

自分とはどんな人間なのか、これからどう生きていくのかを追求し、対話することで深めます。エグモントでは、全寮制なのでいつも一緒に対話ばかりでした。例えばコロナ対策をどう考えるか、ワクチン接種についてどう考えるかなどじっくりお互いの考えを聞き合います。

卒業証書はありませんが、ヘルパー学生などはその経験は就職に有利に働くそうです。

シニア向け、ユース向け（16~19歳向け）のコースも用意されていました。案外安く、日本での生活費で十分賄えます。

デンマークで出会った人たち

左は進行性の病気を抱える障害のある人、左腕に字を書いてコミュニケーションをとっていました。右上は食堂での風景、彼もヘルパー学生と共に生活していますが、実体験を語ってくれました。

「ギャップイヤー」を大切にしている

学校や職を一時、とは言っても1日ではなく1か月とか1年間離れて、あるいはやめて、自分と向き合い、自分とはどんな人生を送りたいかなどについて考える時間を持つことを大切にしています。立ち止まって自分についてじっくり考える時間、日本にいるときは仕事、家事、介護に追われてほとんどそんな時間はなく、欲しいとも必要だとも思いませんでしたが、デンマークでは、追われるようなことはほとんどあり

エフタスコーレ


中卒生が選択、14歳〜可能

- ・260校（サッカーやウインドサーフィン、リズム体操など25種類のスポーツ、乗馬、IT、メディア、手工芸、デザイン、自動車・技術、大工、自然、アウトドアライフ、農業、料理、狩猟、ダンス、音楽、ミュージカル、演劇、外国語など）
- ・メイン科目は週6コマ、その他は義務教育科目や選択科目を学ぶ
- ・対話と生の体験を通して学ぶ
- ・寄宿制



フォルケホイスコーレ

- ・17歳半以上なら誰でも入学可
- ・4つの特徴
- ①探す・見つける、追求する
- ②試験なし、成績なし
- ③会話、談話、対話
- ④共に学び、共に暮らす
- ・シニア向け、ユース向け（16-19歳向け）のコースも
- *一社IEASのHPより








ギャップ イヤー

義務教育後、学校を離れ自分のこれらについて考える時間
「どんな人生を送りたいか？」：自分の暮らしや将来、幸せについて

ませんでした。エグモントホイスコーレも2時半には終わるので、その後はすべて自分の時間。初めのうちは有り余る時間を持って余すほどでしたが、深く考えるようになり、とても大切な時間だと思うようになりました。

日本とデンマークとの違い 18歳以上は国が保護者

日本は親の経済力や学歴、教育に対する意識などに大きく左右されますが、デンマークは教育費無料で、さらに月9万円の返済不要の奨学金があるので、家庭環境はまったく影響しません。いいなと思ったのは、18歳までは親が保護者ですが、**18歳以上は国が保護者**となるという考え方。

日本では、保護者の経済的格差に左右され、入学試験があり、15歳で高校入学、18歳で大学入学、22歳大卒で就職がスタンダードとされ、大卒の肩書を持って大企業に就職すれば幸せになるというような価値観がいまだにあるようです。

デンマークでは、試験はなく、大学への入学資格は高校卒業だけなので何歳からでも大学で学ぶことができます。大学に入ってからものすごく勉強していますが、就職には一見関係なさそうな様々な経験値が重視されます。職業に貴賤はないとされ、医者、弁護士、大学教授など高収入の職も一部にはありますが、教師も工場の労働者も違いがなくほぼ同じくらいの給料。自分がやりたいこと、なりたいことを大事にしています。

日本ではコロナ禍でさらに格差が拡大していますが、デンマークでは税金は高いが教育・医療・福祉は無料なので格差は小さい。それに対してデンマークの金持ちは不満なのではないかと思いましたが、金持ちも支持しているようです。ある調査での回答によると、「格差が生まれて貧しい人が多くなると犯罪などが増えて社会が不安定になる。平和で安定した生活のためには、貧しい人たちに対して国が一定レベルの生活を保障することが必要。それが他の人たちの平和と安定、安心につながる。高い税金を払うのもそれだけの価値がある」と考えているようでした。

いろいろな考え方がある中、今もってデンマークが教育も医療も福祉も無料という政策を選んでいるのは、根本にそのような考え方があるのだろうと思います。

デンマークで出会った大人の人たち

若者は18歳になると、奨学金もあって生活できるので家を出ます。親と一緒に奨学金が制限されたり、3キロ圏内に親がいると奨学金が減額されるという決まりもあるようです。18歳以上は社会が育てます。

そうすると自然に、大人は子どもに頼らず生きることになり、一人暮らしのおばあちゃんも増えます。もちろん福祉が充実しているので、ホームヘルパーが訪問したり、デイケアも充実していますが、誕生日やクリスマスなどの宗教行事の度毎に、近所の人たちを食事に招待したりされたりして、地域の人と交流しながら仲良く暮らし、一緒に楽しむ機会を作っています。その時には子どもたちも戻ってきます。いいなあ、と思いました。



右上の写真は、馬車を趣味にするパン屋さん。結婚式をあげたら馬車で家に行くという風習があるらしく、退職後も活躍しているようです。

私が気に入っているのは、右の下の写真。「ビールを片手に政治を語る」。焼津でも実現したいと思っています。スウェーデンに近い島で、年に1回、1週間ほどの政治を語る集会が行われ、国会議員が集まり、マスコミもそれを中継します。環境や教育など様々な活動をする市民団体がそれぞれブースを作り、市民もそれぞれ興味のあるテーマのブースで話を聞き、語り合い、アピールします。テントのまわりにいすが置いてあって、かしこまってではなく、ビールを片手に食べながら、気軽に語り合います。参加は無料なので、興味のあるテーマを次々と回ることができます。とてもレベルの高い対話をしています。

私は移民をテーマにするブースに参加しました。移民の人たちが困っていること、訴えたいことなどを聞き、語り合っていました。

おとなたちはこうやって自分の時間を使っています。

デンマークはなぜ、しあわせの国と呼ばれるのか。

その要素を4つにまとめてみました。

- 1、いつでも誰にでも自分が望めばチャンスがある。学校でも職業選択でも。
- 2、自分の考えで自分の人生を選択できる。もちろん努力も必要ですが、いつでもトライ、チャレンジし、セレクトできることに「幸せ」を感じているようです。
- 3、時には立ち止まって自分のしたいこと、自分の幸せについて考えることができる。じっくり自分と対話する。

デンマーク国民になるのはけっこう難しいようです。移民の人たちはデンマーク語の試験があり、日常生活で困らないようになる程度ですが、それに合格しないと認められません。3年間勉強するという条件があれば認めているようですが。

そして、

- 4、いざという時に頼れる人がいること。

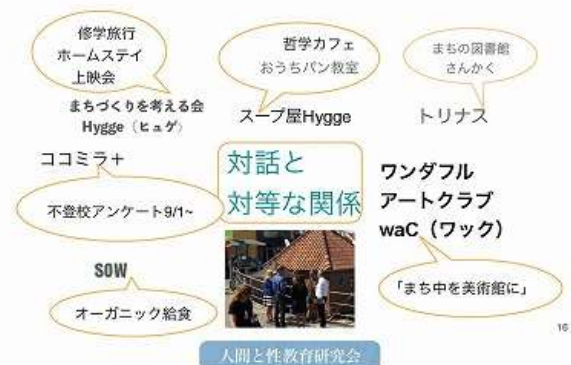
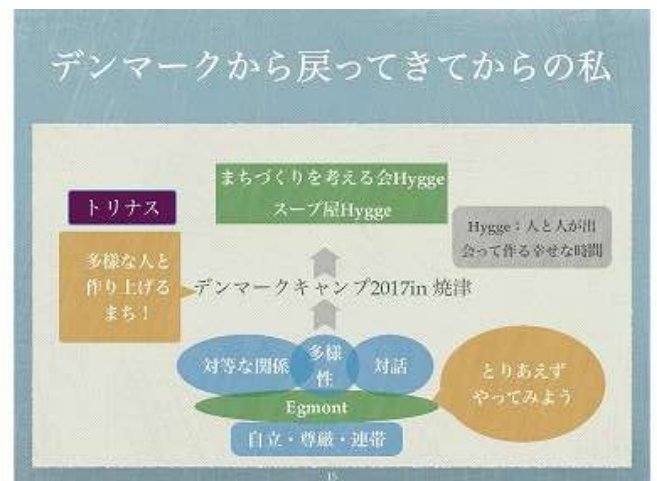
デンマーク人がお金に余裕ができたなら欲しいものはヨット、次がサマーハウスです。趣味に費やします。

デンマーク人は人生を 三つのステージで考えています。

- 18歳までは税金を使って学ぶ時期、
- 60歳までは税金を納める時期、
- 60歳以降は税金を自分のために使う時期。

デンマークから戻ってきて、「とりあえずやってみよう」と考えることが大事だなと思い、まちづくりを考える会 Hygge (ヒュゲ)、スープ屋 Hygge (ヒュゲ) を始め、多様な人とつくりあげる町をめざすトリナスにも加わっています。

哲学カフェ、まちの図書館さんかく、ワンダフルアートクラブ waC、オーガニック給食…、対話とフラットな関係を作りたいと思っています。最近、登校しないことを選んだ子たちの支援ができないかとアンケートを始めています。



大切にしていること 三つのすすめ

1、立ち止まって、なぜ?と自分に問うこと

- 自分のやりたいこと、やりたくないことは?
- 増えて欲しいこと、なくしたいことは?

日常の小さなことへ「なぜだろう」、「なぜ自分はそう思うのか」と問いかけることが大事

2、多様な人(年代、国、職業など)との対話

• 相手を固定化されたイメージで決めつけるのではなく、対話の時は違いを楽しむこと。

• 聴くことを大切にすること。途中で口を挟まない。つつい大人は子どもにこうしたら、などとアドバイスしたくなりますが、最後まで聴きとること

• 本音と言える信頼関係の中で頼ること!

そして、

3、とりあえずやってみること

始めればあとは改善・修正すればいい!



ありがとうございました。質問に答えます。



質問 デンマークでの生活は?日本との違いは?

吉田恵美子さん 物価は高いです。店に入って何かを食べようとすると1000円以上はかかります。パン屋で100円、200円のものを買ってテイクアウトはできますが、店内で食べようとすると、1000円はとられます。店で働いている人たちの人件費が上乗せされるのです。日本では飲食店などの定員さんは安い給料で働かされますが、デンマークは人が働くことに対して高い価値を置いています。

セカンドハンド、中古品を扱う店が多いことにも驚きました。

使い捨てるのではなく、モノを大切にし、修理して使い切る、他の人に使ってもらう。家具なども二、三代にわたって使おうとするので、いいものを選んで買います。だから、修理が仕事として成り立つ。使い捨てるのではなく、物や製作に対して高い価値を置いています。

松本花奈さん 静岡県立大学看護学部 2年

デンマークのお話を聞き、年齢や身体による制限があってはならないとあらためて思いました。日本では大人だけでなく学生も夢を追えない、なりたい職業に着けない状況になっています。なかなか一人では解決できませんが、何とかしたいなと思います。

質問ですが、ホームエデュケーションの内容は自由なのでしょうか。



吉田恵美子さん

デンマークでは日本の学習指導要領のような細かい決まりがありません。学校に行かない選択肢も認められています。デンマークのある幼稚園の園長の言葉「子どもたちの頭の中の箱をオープンにさせて、入れるだけでなく出すことを大事にしている」が印象的でした。日本では、箱に入れたら蓋をして記憶し、テストの時に出す、というようになってしまっていますが、違うなあと思いました。

柴田せいあさん 静岡県立大学国際関係学部2年

自由に自分らしくいられるっていいなあ。その人を見てくれる周囲の環境が大事だと思います。コロナ禍で日本では大学生が孤立しています。自分とどう向き合うか、本音で言い合える機会が必要だと、あらためて思いました。

松浦旦周（あきのり）さん 静岡県立大学国際関係学部2年

SSSで学習支援をしながら中高生を見ていますが、経済的理由で大学に進学できない子もいます。就職できないと心配している学生もいます。大学もオンラインで授業をしていますが、対話ができず、孤立している学生が多くいます。デンマークは大学も無料、国が一人ひとりを大切にしている。日本も取り入れたいと思いました。



久保田空さん 静岡県立大学国際関係学部1年

国民、政府の意識の違いがデンマークと日本の差を生んでいるなと思いました。誰にでもチャンスがあると思えることの大切さ、そのために一人ひとりができることを考える必要を改めて感じました。すぐに変えられることではありませんが、選択肢を増やし、一人ひとりができることが広がります。

質問です。デンマークのコロナによる制約やそれに対する対策は？

吉田恵美子さん

国として早い時期からかなり厳しく制限しましたが、ワクチン接種が進み、今はかなりフリーになっているようです。政府が専門家の意見を尊重して国民にわかりやすく丁寧に説明したので国民も納得したようです。日本では政府に対する信頼は低く、何やってんだ！という感じ。デンマークでは国は自分たちが作っていると考えているので、国民のために国が動いていると信頼しています。政治の中心は若い人、議員も30代が中心、高齢でも50歳。若い人たちの関心も高く、意見が政治に届いています。政府も若い人たちを意識しています。税金を納める国民が、政府がおかしなことをしていないか見張っている、という感じです。



司会富田 吉田さん、ありがとうございました。学生さんから活動を報告してもらいます。

松浦旦周（あきのり）さん

この4人は、「学生助けたいんじゃー」で活動しているメンバーです。県立大学には様々な社会貢献系のボランティアサークルがありますが、家庭の貧困や子どもの貧困に対する支援をする「静岡学習支援ネットワーク」と大学生の貧困に対して支援する「学生ボランティアセンター」との有志の大学生8人くらいで「助けたいんじゃー」を立ち上げて活動しています。

静岡学習支援ネットワーク（SSS）は、静岡市の中高生と

話をしたり学習を支援したりする活動をしています。現在は40人くらいの学生や子どもたちが参加してくれて



いて、3か所で週1回集まり、90分くらい一緒に勉強したり話し合ったり活動を計画したりしています。「まだ帰りたくないよう」「もっと話したいよう」という子もいて、仲良くほのぼのとした集まりを持っています。緊急事態宣言下、オンラインでつながっていますが、生活保護家庭、ひとり親家庭、学校に不安を持っている子どもなど貧困が深刻化しています。アンケートでは、「オンライン授業と言ってもインターネットにつながる環境がない」「スマホを家族で共有している」という家庭もありました。衝撃だったのは、食事に困っている家庭が7割にも上ったことです。大学進学するお金がない、就職できるか不安などと回答する高校生、家庭も増えています。これを受けてSSSでは食糧支援などの活動を模索しているところです。

久保田空さん

SSS(静岡学習支援ネットワーク)で活動しています。将来、教職に就きたいという夢をもっていますが、子どもの貧困の問題は避けて通れないと考え、募集のチラシを見てサークルに入りました。貧困が身近になかったので衝撃的なこともありましたが、子どもたちの勉強したい、みんなと一緒にいたいという思いに寄り添いたいと思っています。大学生も、バイトをしないと生活が苦しいのにシフトを減らされた、食事を1日2食、中には1食にして耐えている、経済的な余裕がないので友達と出かけることをパスしたり、たいへんな思いをしています。私たちに何かで



できることはないかと模索する中で、とにかく話を聞いてみよう、そして寄り添って支援していこうと思っています。接するときに気を付けているのは、支援してあげるといような立場や目線では不愉快な思いをさせてしまいますので、どうしたら対等の関係で向き合えるか模索しています。

松本花奈(かな)さん

看護学部からの目線でコロナの中での大学生生活を紹介します。1年生の時にはほとんどオンライン授業でした。2年から対面での病気や薬に関する授業が増え、座学だけでなく注射の打ち方の練習やベッドメイキングなどの実技の授業も行なっています。実技科目は120人を午前と午後の2グループに分けて行っています。看護科ですので、病棟実習がありますが、1年次は学内実習に変更し、ペーパーペイシエントと言って、紙上で患者の治療法などを学びました。病棟実習の前はコロナ対策のため、2週間バイトが禁止されました。看護学部は他の学部よりお金がかかります。教科書は医学書ですので学期3~5万円かかります。演習衣としてのナース服も予備が必要ですし、血圧計や聴診器なども個人で購入するので出費が多くてたいへんです。



コロナでバイト収入が減ったり、親からの仕送りも減額されたり、多くの学生はきびしい環境に置かれています。対面の授業も週1日程度なので、友達との関係を深めるのも難しい状況です。

SSSと学生ボランティアセンターは、静岡県立大学で「食べ物カフェ」をやっています。昨年、食料無料支援活動を週1回、スタッフの負担が大きいので今は2週に1回、実施しています。食べ物を渡すだけでなく、困ったことや体調などいろいろ話を聞くようにし、そこで食べるわけにはいきませんが、カフェのような温かい雰囲気を目指しています。その中で感じたのは、

第1に、貧困についての悩みや困っていることは、人には言えません。友達関係もぎくしゃくしてしまいそうなのでなかなか相談できません。「食べ物カフェ」では、友達でも親でもない距離感なので、いろいろ話を聞くこ

とができると思っています。

第2に、学生だけでなく子どもにとっても、貧困を相談できる環境が必要です。当たり前のことができなくなっています。1日3食を食べられないとか、水道代節約のために風呂ではなくシャワーにしているという学生もいます。「できるのが当たり前」「こうなるのが普通」、それができないのは自分の責任であるかのように思われがちですが、その「当たり前」を考え直す必要があると思います。

第3は、貧困の問題は一人で解決するのは難しいということです。学生ならバイトできるだろ、中高生なら親が支援してくれるだろと思われていましたが、それができなくなっています。日本での「当たり前」を問い直し、相談できる場、支援が必要です。

柴田せいあさん

「学生ボランティアセンター」の目標は「頼り、頼られる関係をつくろう」。大学周辺のごみ拾いなどをしたり、ボランティアサークルの横のつながりづくりの活動をしています。「食べ物カフェ」では、バイト先が休業で収入がない、切り詰めるのは食費なので1日1食という学生もたくさんいます。ひとりである時間が多くなり、誰かと何かを話せる関係を作ることができず、心が疲れている学生も。悩みを気軽に相談できる環境が必要です。食べ物カフェでは、一緒に関わることを大切にしています。

私は国際関係学部にはいますが、昨年度は、普段だったら開講されていた現地調査などのフィールドワークが開講されませんでした。友達もできず、サークルにも入れず、心が疲れてしまっている学生がたくさんいます。何とかしたいと思います。

《質問》 前田 ストレス発散法は？

松本 ワンちゃんに抱き着くこと

柴田 委員会やサークル活動で仲間と話しをすること

松浦 サークルで友達と話すことと、アマゾンプライムで映画を観ること

久保田 録画した動画を見ることと中学の時にやっていたのでサッカー

《感想》

吉澤 私も田町で子ども図書館をやっています。学生さんたちの立派な活動に感激しました。食糧支援を援助したいと思います。食料はどう調達しているの？

柴田 大学が緊急支援プロジェクトを立ち上げてくれて、その基金から支出しています。スーパーで買い物したり、寄付されたものを無料配布しています。

松本 食糧を支援するときには栄養面を考え、炭水化物だけでなく野菜や肉などを入れることを意識し、偏らないように考えて選んでいます。一人暮らしだとどうしても野菜が不足しがちなので、生鮮食品などを多めにしています。

松浦 SSSでも食糧支援を考えています。資金がないので、フードバンクなど模索していますが、協力をお願いします。

松浦 SSSで調査したところ、食事に困っている家庭が7割、インターネット環境で困っている家庭が1～2割ありました。(7割の家庭が困っている中で、どうやってBYODでの学習支援に取り組むことができたのか教えて欲しいとの質問への返事として)そこで、アイパッド6台、ポケットWifiを貸し出す支援を始めました。Zoomやラインで授業が行われますが、その使い方の説明会もやっています。

静岡県立大学 柴田せいあ

本日はお話をさせて頂く機会をくださり本当にありがとうございました。

もし学生ボランティアセンターに関してご質問や感想がございましたらこちらのメールアドレスにご連絡くださると嬉しく思います。

pre.volunteercenter@gmail.com

また県大のHPに実際に行った活動(熱海への募金活動など)についても広報しておりますのでぜひご覧ください。

静岡県立大学国際関係学部 松浦旦周

今日はお話を聞かせて頂いて、そしてお話しさせていただく機会を下さりありがとうございました。

静岡学習支援ネットワークに関して(学習支援や食料支援・緊急事態宣言を受けて行ったアンケートなど)ご質問やご興味がありましたら、こちらのメールアドレス

study.at.shizuoka@gmail.com 2000akinori0903@gmail.com(個人)に連絡をお願い致します。

<https://shizuoka-study-support.jimdofree.com/> こちらからも活動内容をご確認いただけます!

教育全国署名静岡県スタート集会

橋本事務局長

看護学科での自己負担が大きいことにあらためて驚きました。他の学部も同様ですが、大学教育もやはり無償にすべきです。

日本では「競争」「自己責任」「受益者負担」が定着し、「大学に行っていい思いをするのだから学費を払って当然」「努力したものがむくわれるのはあたりまえ、努力しなかったのだからたいへんでも受け入れろ…」と思われていますが、学校は公共財です。受益者は個人ではなく、社会・国家のはず。教育を無償にするのが、あたりまえです。

それを実現するためには、「自分とみんなが幸せになるためにはどうしたらよいかを考えるために学ぶ」「平和で安心な社会にするためには格差はあってはならない」「自分たちでこの国を作っている。変えられる」など、デンマークから学ぶところはたくさんあります。自分には何ができるのか。かんがえ、とりあえずやってみましょう。

1、活動報告、今後の方針

教育全国署名は県議会への請願書と共に提出します。県議会の会派を回り、紹介議員になること、委員会での賛成討論をお願いします。副知事、県教育長とも懇談し、採択を求めます。

2、会計報告・予算案提案

閉会の言葉 野村さん コロナで心配したが、たくさんの方が集まってくれたことに感謝。署名の呼びかけ。最後に吉田恵美子さんからの訴え

学校に行かないことを選択した子どもたちを支援するためのアンケートへの協力をお願いします。

12時終了。

